

教えるから 共に学ぶへ ⑫-2

今治市立菊間中学校
担任 南條 元皇

お忙しい中、人権・同和教育参観日にご来校いただき、また、貴重なご感想をお寄せくださり、誠にありがとうございました。授業で取り上げました「汚染一揆」についての感想、差別に向き合うご自身の姿勢、そして子どもたちが真剣に考える様子へのご意見などたくさんありました。ご家庭での道德教育の様子もうかがえ、大変心強く感じております。以下に、保護者の皆様から頂いたご感想を一部紹介します。書面の都合上、全てを掲載できないことをご了承ください。今後とも、子どもたちの道德心と豊かな人権感覚を育む授業づくりに努めてまいりますので、引き続きご協力・お力添えをよろしくお願いいたします。

部落差別の理不尽さや汚染一揆で人々が不当な決まりごとに立ち向かったことを学び、差別を無くすには正しい理解と声を上げ、差別に立ち向かう強い心や勇気が大切だと感じた。

人の歴史には常に差別から不幸な行動が起きているんだなと感じました。昔のことを知り、勉強することで、繰り返されないようにできたらいいですね。一揆を知ることによって人の気持ちや自分の気持ちにしっかりと気づき、行動できたらいいですね。

授業参観ありがとうございました。中学生にもなると、なかなか発言することへの抵抗感もあると思いますが、授業では一人一人が自分の意見を発言し、互いに学び、考えを深める経験ができていて、うれしく感じました。感想にあった「人を思いやる気持ちを忘れずにいたい。」というその思いをいつまでも大切にしていってほしいです。

授業の中で差別をなくすために子どもたちが出した意見が心に残りました。親の私たちだったら自分の代で終わらせたい、これからの人たちに同じ思いをさせてはいけなくすぐに思い付きますが、子どもたちから意見が出たことに驚いたし、うれしくも思いました。周りの人々、相手の気持ちを考え、先のことで考えられるようになったことに成長を感じました。このように正しい考えを持って大人になってほしいです。そしてまた次の世代へつないでほしいです。

